

**ASCON科学者委員会**  
**機能性表示食品評価報告(2023年下期)**  
**～届出者による自己評価成績の概要について～**

最終修正日:2024年2月6日  
ASCON科学者委員会 事務局長  
山崎 毅  
Takeshi Yamasaki, DVM, Ph.D.

<http://ascon.bz/>



\* 2023年12月15日時点の届出者からの自己評価成績を集計

ASCON科学者委員会評価基準		評価判定 (機能性表示数)
A	有効性について十分な科学的根拠がある (5報以上のRCT論文やシステマティックレビューで有効の判定がある場合、最終製品でのRCTが2報以上の場合)	202
B	有効性についてかなりの科学的根拠がある (RCT論文が2報以上あり、有効の判定が多数の場合、あるいは最終製品でのRCTが1報の場合)	358
C	有効性についてある程度の科学的根拠がある (RCT論文が1報のみ、あるいは2報以上で有効と無効が拮抗する場合)	262
保留	科学者委員会の評価基準では、科学的根拠に達するための追加資料/説明が必要と自動判定された場合に「保留」とする。届出者による総評コメントは製品評価一覧表をご参照のこと。	51

- ・ASCON基準適合率:822/873(94%) 届出情報照会呼応企業:75社/476社(16%)
- ・評価実施率(対象は販売中製品の表示数) 873/3166(28%)

\* 機能性表示評価成績一覧表はASCONホームページをご参照のこと → →



## 最終段階としての「企業の自己評価」



- 現在でも届出資料は消費者庁がウェブで公開し、誰でも見ることができるが、これは専門家以外の方が読んでも理解が困難である。
- 他方、ASCON科学者委員会の独自評価基準に沿って行った自己評価結果は簡単な一覧表であり、重要項目(RCTの論文数、被験者数、用量適合性等)を容易に判断できて、エビデンスの強さをABC判定で知ることができる(効果の強さではないことに注意)。
- 当委員会は、機能性表示食品評価活動の最終段階として、昨年3月より届出者にASCON基準による自己評価成績をご提出いただき、要約をウェブサイトに公開した。
- 機能性エビデンスの自己評価成績を公開した製品は、消費者の信頼が増して商品選択の参考になっているので、届出企業にとってもメリットがある。逆に自己評価成績の公開を控えた製品は、消費者市民の批判の目にさらされることとなる。最終段階の企業の自己評価への進化が機能性表示食品全体の信頼度の向上と消費者の支持につながることを強く願っている。
- なお、機能性表示の科学的根拠の妥当性について、ASCON科学者委員会では用量適合性(臨床論文の用量の2分の1~2倍なら採用)、ならびに肯定的論文と否定的論文が拮抗する場合のエビデンス総体の信頼性についても、自己評価基準に組み込んでいる。
- 本評価判定成績へのご意見は事務局まで → [ascon.scientist@gmail.com](mailto:ascon.scientist@gmail.com)

\* ASCON科学者委員会は今後、「ASCON 科学者・消費者委員会」として再編される予定です: <http://ascon.bz/archives/988>

